

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立東小橋小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「ひとりひとりを大切にし、豊かな心を育てる」を学校教育目標に、「人にやさしく、元気な『東小橋っ子』の育成～をめざす子ども像に掲げて、日々の教育活動に取り組んでいる。

1. 自らすすんで学習する子どもの育成

学力・体力の向上については、児童の実態に即して教員の授業力を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を積み重ね、保護者や地域と連携を密に図りながら、取り組んできた。新型コロナウイルス感染拡大の中で、学年の実態や感染状況に応じて双方向によるオンライン学習を進めることができた経験を活かし、一人一台端末を利用した心の天気やデジタルドリルの効果的な活用を進めていきたい。

2. 仲間を大切にする子どもの育成

安全・安心の実現においては、地域の方々に子どもたちを知ってもらうことで身の安全にもつながる「元気なあいさつ」と自ら安全・安心な生活が送れることをめざした「防犯・防災」の指導を続けている。その結果、「すすんでしっかりとあいさつをしています」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は90%以上の児童が「あいさつをしている」という肯定的回答をした。引き続き、「元気なあいさつ」が聞こえてくる学校づくりを目指して取り組んでいきたい。

3. 人の気持ちを考え行動できる子どもの育成

常に自分自身と友達も含めて人の気持ちを考え、配慮しながら行動できるように指導をすすめ、「友達と仲よくしている」児童の割合をさらに増やしていきたい。

4. 最後までやりとおす子どもの育成

何事にも、ものごとを最後までやりとおす粘り強さとあきらめないと強い意志を育てていけるように指導を工夫していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」（1～4年）「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」（5、6年）の肯定的な回答を95%以上にする。

中期目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- ・令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を95%とする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」(1～4年)「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」(5, 6年)の肯定的な回答を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を62%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.3%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92.2%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- ・令和7年度において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を100%にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

【その他】

- ・令和8年度の複式学級設置に向け研究・研修を進める。

3 本年度の自己評価結果の総括

| |
|--|
| |
|--|

(様式 2)

大阪市立東小橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。 令和 7 年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100% にする。 令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「すすんでしっかりとあいさつをしています」の項目に対して肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。 令和 7 年度末の校内児童アンケートにおいて、「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの学習が楽しい」（1～4 年）「遠足や社会見学、芸術鑑賞などの体験的な学習に楽しんで取り組んでいる」（5, 6 年）の肯定的な回答を 95% 以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容① 【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】 いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを的確に聞き取り、課題の解決を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめのアンケート調査を年間 3 回以上行う。 認知したいじめ事案については、100% の解決を図る。 「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」を設定し、いじめ防止の意識を高めるための特別活動や道徳授業を年 2 回以上実施する。 | |
| <p>取組内容② 【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】 保護者との連絡を密にしながら、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）、こども相談センターとの連携を図り、問題事象の解決を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 事象が起きた時の指導内容や保護者対応等について、事象発生時は毎回記録する。 毎月の生活指導部で今後の指導・支援についての教職員間の共通理解を図る。 区役所（地域子育て支援）や子ども相談センターと連携する。 | |
| <p>取組内容③ 【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】 月別生活目標や、児童会の取り組みに「あいさつ」を位置づけ、学校の重点目標として指導を図り、あいさつをすすんでしっかりとできる子を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間 2 回以上のあいさつに関わる取組を実施する。 | |

取組内容④【基本的な方向 1-6 安全教育の推進】

情報モラル教育を実施し、児童自身が適切に情報機器を使用できるようにする。

指標

- ・児童の発達段階にあわせた情報モラル教育を年1回は実施する。

取組内容⑤【基本的な方向 2-2 キャリア教育の充実 2-3 人権を尊重する教育の推進】

芸術鑑賞会・体験学習・校外活動を行い、豊かな心の育成を図る。

指標

- ・全学年、年1回以上体験学習を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立東小橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | | | |
|---|------|--|--|
| 年度目標 | 達成状況 | | |
| <p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 62%以上にする。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86. 3%以上にする。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 92. 2%以上にする。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 88%以上にする。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。 年度末の校内児童アンケートで「マナーを守って楽しくおいしく食べようとしている」の項目の肯定的な回答の割合を 95%以上にする。 | | | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容① 【基本的な方向 3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】 就学前教育施設と連携し、円滑な教育の接続を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前施設と連携した取り組みを年 3 回以上実施する。 <p>取組内容② 【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 学習のあり方を質的に改善し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に 1 回程度、「話し合い活動の深め方・広げ方」に関する研修会を実施する。 年度末の校内アンケートにおいて、研修会等で学んだ手法を活かした授業を日々実践していると回答する教員を 100%にする。 | 進捗状況 | | |

取組内容③【基本的な方向 4-3 英語教育の強化】

「小学校低学年からの英語教育」、外国語活動、外国語科における、対話的な学びを通して自分の考えを広げ深める子どもを育てる。

指標

- ・外国語科、外国語活動の各単元で、児童が以前の自分と比べ「できる」と感じられる評価活動を実施する。
- ・全学級で、1回 15 分×週 2 回の「小学校低学年からの英語教育」を実施する。

取組内容④【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】

体育科の授業において児童が「できるようになった」と達成感を感じる授業を実施する。

指標

- ・校内児童アンケートの「音楽や体育などいろいろなことに挑戦し、できるようになってきたている」の項目において肯定的な回答を 85%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】

基本的な生活習慣の指導を行い、児童の健やかな成長を図る。

指標

- ・基本的な生活習慣に係る家庭への啓発を、ほけんだよりで年に 11 回以上行う。
- ・給食週間に健康委員会による集会を開催する。
- ・食育について、家庭への啓発を食育だよりで年に 11 回以上行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立東小橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | | | |
|--|------|--|--|
| 年度目標 | 達成状況 | | |
| <p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55% 以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。 令和 7 年度において、第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 95% 以上にする。 令和 7 年度末の教職員アンケートにおいて、「校内研修が充実していたと思うか」の項目に対して肯定的に答える教職員の割合を 100% にする。 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 80% 以上にする。 | | | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末（一人一台タブレット PC）のデジタルツール等を各学年の実態に応じて活用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用した家庭学習を、月 1 回（年平均）以上実施する。 (ただし、1 年生は 2 学期より上記指標の対象とする) <p>取組内容② 【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】 全学年で副担任制を実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内児童アンケートにおいて、「授業がわかる」の項目に対して否定的に答える児童の割合を 5% 以下にする。 <p>取組内容③ 【基本的な方向 7-2 教員の資質向上・人材の確保】 各教員のニーズ・課題に沿った研修を計画的に実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修を年間 10 回以上行う。 <p>取組内容④ 【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】 読書タイムやブックバッックを活用し、読書環境を整えていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査において、「学校図書館やその蔵書を活用した授業を学期に数回程度行った」と回答する教員の割合を 80% 以上にする。 | 進捗状況 | | |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点